

学年・教科：小学部第3学年：国語を主体とした教科横断型授業（理科、社会、算数など）

単元名：食べもののひみつを教えます（光村）

時	活動	成果・子どもたちの様子	備考
1	《対話的：協働的》話し合い活動 導入：既習内容の確認 わかりやすく伝えるための工夫を話し合う。	「すがたをかえる大豆」の既習内容をもとに、「活動目的」を確かめ自分の意見を出したり、友達の考えを聞いて質問したり、話し合いの仕方を共有することができた。 他単元「はんで意見をまとめよう」の学習目標を重ね、二つの単元統合で、学習活動も多面的に行うことができた。話し合いの役割「司会」「記録」「時間」を決め、自分の意見とその根拠を話すように練習した。 それぞれの役割を交換することで、話し合いの進め方や留意点を意識しながら、今後も様々な議題を解決できるような場面を作っていきたい。	・教科書を参考に題材を選ぶ。 書く順序や構成をノートとワークシートに整理。 ・他単元との統合学習 目的や進め方を確認し、意見の共通点や相違点に着目し、考えをまとめる。
2	《主体的：対話的》作文活動 ① 作文活動 ワークシートと作文メモ活用 ② 仕上げた作文の校正 上級生と一緒に校正し、清書	既習の「すがたをかえる大豆」の構成をもとにしたワークシートを活用することで、作文学習をスムーズに進めることができた。 中学生との縦割り活動では、上級生に励まされながら、文章の構成や接続、誤字脱字の修正、読み方の提案などアドバイスを受け、楽しく交流がもてた。上級生にとっても、対象となる相手に、正確に意見を伝えるためのコミュニケーションを学ぶ機会となった。	上級生には、交流前に、「作文と発表の留意観点」を伝え、縦割り活動を行った。
3	《深い学び》発表活動	事前指導として、感想、質問を考えながら聞くことができるように、メモをとることを伝えため、事後の交流時間や、感想文に、それぞれの意見を観点ごとに書くことができていた。 友達や自分の頑張りを認め合ったり、共感しあったりすることで、調べたことを皆の前で発表できた自信や、上級生の姿を目標に、今後の学習意欲を持つ事にも繋がったようである。	学習のめあての確認提示 ① 相手にわかりやすく説明するための表現を工夫 ② 友達の発表の良いところを探しながらメモを取る。 ③ 質問や感想を伝え合う。
<p>伸ばせた力と子どもの変化：2022年度4月から対面型授業に戻り、自分の意見や感想を発表する場面が持てたことで、対象とする相手にわかりやすく伝えるための工夫を、体感を通して経験できた。文章だけでなくITを使ったプレゼンテーション、絵やイラストなど、さまざまな表現法を試みて、「伝える力」を伸ばすことができた一年だった。</p> <p>保護者の反応・授業の活動目標と内容、評価観点を、保護者と共有し、授業と家庭学習の連携をとりながら両輪で進めることができ、学校教育への理解や信頼を深めることができた。</p> <p>所感：1時間の授業の中で、「対話的」活動、「主体的」活動が、「深い学び」につながるように、授業計画を考えている。この深い学びへ導くために必要な「聴く力→質問する力」を個々に身につけることが、各学年の教育目標になっている。今後も、質問する力が定着できるような授業作りを試行していきたい。</p>			